

自転車利用促進で「一石4鳥」を狙う

『交通安全 地域活性化 健康増進 環境負荷軽減』 3月議会川口の一般質問より

川越市での自転車利用率は他の自治体より高く、最寄り駅までの主な移動手段として、24.7%が2輪車を利用し（全国平均16.4%）、従業地・通学地までの交通手段としても、23.1%が2輪車を利用（全国平均は15.6%）しています。

自転車は、街中では500mから5kmまでの移動手段としては、車を含めたどの交通手段を用いるよりも所要時間が短いとされているほか、環境や健康にも良いことから、最近では多くの自治体で利用促進施策が進められています。（それでも日本の取り組みは世界有数の自転車大国にもかかわらず、他の先進国に比べると遅れていると言われています。）

川越市の自転車利用促進に関する施策は、駐輪場の整備や僅かな自転車通行帯の設置等、にとどまり、特段の自転車利用推進施策は行っていないのが現状です。

加えて、観光施策でも自転車ツーリズム（市内を通るサイクリングロードの総延長は県内有数）やレンタサイクルの充実など、近年の自転車ブームへの対応は特に見受けられません。

下記は川越市と金沢市の自転車施策への取り組みの差を感じさせる一例です。

川越市の自転車シェアリングと金沢市のレンタサイクル事業はこれだけ違う

同じ会社の同じ自転車シェアリングシステムを使っている2市ですが…

	川越市	金沢市
電動アシスト自転車の導入	×	○
1日レンタルの制度	×	○
事前予約	×	○
サイクルポート数	11カ所	21カ所
事務局以外の提携窓口	×	28カ所



自転車に関する総合的な計画の策定を提言

自転車に関する総合的な計画を策定している自治体の多くが、下記のような「はしる」「とめる」「まもる」「つかう」の4つを柱として、交通安全・地域活性化・健康増進・環境負荷低減などにつながる「自転車まちづくり」を推進していくための共通の指針としています。

★ はしる ～自転車通行空間整備～

市内の幹線道路やその平行路線等を活用した自転車通行空間ネットワークを構築し、自転車利用者のみならず、歩行者が安全・快適に通行できる道路交通環境を創出します。

★ とめる ～駐輪環境整備～

駐輪需要に対応した、便利で使いやすい駐輪環境を創出するため、駐輪場の適正な利用を図るとともに、放置自転車の削減を図ります。

★ まもる ～ルール遵守・マナー向上～

多様な自転車利用のための安全で快適な環境づくりのために、自転車利用者へのルール遵守とマナーアップを図ります。

★ つかう ～自転車利用促進～

健康増進や環境負荷低減などの自転車利用のメリットを踏まえ、市民や観光客が楽しく快適に自転車を利用でき、自転車の利用促進につながる環境を創出します。

